

# 瀬戸先生の『理論』と佐賀県太良町の『実践』

古澤省吾

筆者（たまあじさいの会の古澤）の出身地、佐賀県太良町は、典型的な農林水産の町です。背後には修験道が盛んだった多良岳山麓があり、前の海はむつごろうで有名な有明海の干潟が広がっています。干満の差を利用した海苔の養殖と、みかんなどの果樹園、棚田、田んぼや畑、畜産や養鶏場もあって、農林水産業の多様性がこの田舎町にあると言えますが、町の総面積の55%は森林です。この森林が見事に涵養されているお陰で、天気予報ではたびたび『佐賀県全土に大雨洪水注意報、ただし太良町を除く！』などと放送されることもしばしばです。

瀬戸先生はたまあじさいの会でも毎年秋に、日の出の処分場の『一斉水質調査』に参加し、講演をして頂いています。もちろん日の出の問題だけでなく、長年にわたって全国の問題を取り上げて、支えてこられました。何度かお説に接する機会があって、瀬戸先生の『理論』が、農林水産業の太良町では『実践』されていることに気がしました。瀬戸先生は『環境を支えて来たのは農林業である』、『日本の農山村は消滅に向かっている。この消滅はやがて都市社会や国土の衰退につながる』、『農地は治水・レクリエーションなどの公益的価値も生産している。日本の森林は食料・材木の生産だけでなく、さらに、森林は治水・土壌保全などの公益的価値も生産している』との持論をいろんなところで精力的に発表されています。たまたま自分は瀬戸先生と田舎の太良町の両方にご縁を頂いている。この共通項は、日本広しといえど自分しか居ない！瀬戸先生に、それが実践されている現場と言える太良町でこそ講演をしてもらいたい！となんとも実に傲岸不遜なことを思い付きました。

先生のご快諾と地元の方々の協力も得まして、6月14日に「農山村なしに持続的な環境は語れない—洪水と温暖化防止を例に一」という講演会を太良町で実現することができました。約120名の参加者があり、高度な内容ながら、噛み砕いて面白く伝えられたこともあって、ひとりの居眠りもなく、熱心に聞いてもらいました。特に農林水産業の方々から熱い賛同を頂き、先生も生の声に感激されておられたようです。講演後、一人の女性がすぐに先生に駆け寄ってきて、「よくぞ地場の漁業と干潟の価値に目を当てて頂きました。嬉しい！」。農家の若者夫婦も来て熱心に質問していました。漁民のおかみさんの訴えは、その前日、諫早湾のギロチンの横断道路に瀬戸先生もいらしたので、実感されたことと思います。（瀬戸先生の講演内容は日の出の森・支える会ホームページに掲載中です。）

その後は場所を多良岳の登山道近くにある『茶楽』という素敵なカフェに移し、参加者全員が自分の意見を述べることもできて、熱い勉強会となりました。固い内容の講

演会ではありましたが、だからこそ環境にも、生活にも、生き方にも、人々の関心の高さとそのありように、改めて感動し、尊敬の念を覚えました。だって皆さん一生懸命に生きておられるのだから、心底真面目です。これは大いなる自然を相手に、その恵みに感謝して生きている農林水産業の町だからこそ、当たり前のことですよ。

しかし、太良町の当局と言いますか、町役場と森林組合には時間をかけて、町長、森林組合長にもご挨拶に伺って趣旨を説明し、理解と賛同はその場でも示されていたのですが、平日だったこともあるかもしれませんが、講演会にはこれら当局からの参加者は一人もありませんでした。その翌日に、参加されたオバさんが、たまたま町長がお店で買い物しているのを見かけて、「あんた、あんな良い講義を地元の出身者が企画したのに、何で役場の人間、誰一人も参加しなかったのか！」とお店の人もビックリするくらいの大声で文句したそうです。同時にお店の人もその剣幕に驚いたそうです。どこの社会でも権力者というものは、他所者の意見には耳を貸したくないものかも知れませんが、本当は反対に広い世界観を身につけるべきではないでしょうか？それに今回は瀬戸先生という権威の先生が講義されるのですから、行政の場にある人こそ良い勉強の機会だったはずと、このことは勿体なくて残念です。瀬戸先生が提唱されている『公正で持続可能な社会』は、都市と農村の本当の意味での生産性を、これまで疎んじられてきた環境保全などの意義も踏まえて、正しく評価しようということ、如何に『公正』を社会に導入して、実現していくかはこれから本当に大切なことであると思います。

これは全く余談の私事で恐縮ですが、筆者の古澤はこの太良町で何をしているか？一言でいうと亜麻（学名： *Linum usitatissimum*）という植物、その全体を扱っております。亜麻は有史以前から世界各地で栽培されてきた人間にたいへん有用な植物です。その繊維は亜麻（リネン）といい、丈夫で美しい光沢を持ち、そして吸湿性と発散性に優れていて、雑菌も繁殖しにくいから清潔であるという特長があります。亜麻は過酷な乾燥した寒冷地でも育つので農薬はあまり使用せずに済むので、地球環境に優しいエコロジカルな作物といえます。繊維にはペクチンが残っており、これが放射性物質を吸着します。ちくりん舎がフクシマなどで測定に使用されているリネン布は、当社で供給しているものです。リネン布を愛するお客様にベッド・シーツやタオルの製品や、服地・カーテン材料用に反物をカットしてメートル単位で太良町から発送しています。亜麻の種を亜麻仁（Flax Seed）といい、亜麻仁は45%前後もの油脂分を含みます。この亜麻仁を搾油したものが亜麻仁油であり、その約6割がオメガ3脂肪酸というもので、体内では合成できない細胞膜の材料として必須の栄養成分です。このオメガ3を十分に摂取することは、ほぼすべての生活習慣病に予防・改善の効果があるとされています。実際に欧米においては亜麻仁は人気ある食材として定着しているものの、日本では未だに馴染のある食材とは言えませんが、太良町の小さな工場で毎日少量を丁寧に搾油して、全国に新鮮な搾りたてを発送しております。